

家庭教育支援協会

ニュースレター 第3号

親にしかできない唯一無二の家庭教育 ～家庭教育支援協会の展望～

和田 みゆき

家庭教育支援協会 副理事長・日本家庭教育学会常任理事



2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年半、2011年9月11日のアメリカ同時多発テロ事件からは11年の歳月が経ちました。被害に遭われた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。またお亡くなりになられた方々、ご家族ご親族の皆さまには、謹んでお悔やみを申し上げます。

類を見ない大災害や事件は、私達に人間の弱さと愚かさ、そして自然がもつ計り知れない怖さを思い出させてくれました。人類の将来に大きな影響を与えたこの二つの出来事は、直接の被害を受けなかった私達とその子ども達の心に、いったい何を残したのでしょうか。

それは例えば、被害に遭われた方々の心に寄り添うこと。悲しみ辛さを風化させないこと。痛みを分かち合うこと。人間の愚かさを知ること。自然の力の大きさを軽んじないこと。辛くても前を向いて生きること。命の重さ。非常時の国家運営と国民の役割。国民の生活を守る国や地方自治体のあり方。国民の意思を国家に反映させる方法。問題が起きたシステムの改善、原子力発電の必要性など、ちょっと考えただけでも多岐にわたって思いつきます。

これらの件について子ども達は学校で『自分達にできること』や『自分が生きている意味』『命』などをテーマに、人間としてのあり方を考えさせられたようですが、ご家庭ではどのように捉え家族間で意見交換されたのでしょうか？

いつ誰の身の上にも起きてもおかしくない自然災害や途方も無いテロ事件について、我が家としての考えをまとめ、次世代を担う子ども達に繋いでいくことも大切な家庭教育ではないでしょうか。不謹慎な言い方かもしれませんが、こういう非常時にこそ、改めて人としてのあり方や生き方など家族全員で共通認識として確認したいものです。

さて我が家の場合ですが、9月11日には黙祷をし、家庭の方針を確認しました。亡くなられた方々には、明るい将来とたくさんのやりたいことがあったはずです。その無念さを少しでも受け止め、今後同じ過ちを繰り返さない為にも、個人として地域としてできること、そして被災地から離れていても同じ社会を構成する一員として、国のあり方等をそれぞれの立場で考え、今後は収入のごくごく一部ではありますが、毎月寄付しようと決めました。これは娘もお小遣いの中から出していく予定です。娘は成人して家を離れるまで、人としての生き方を、様々な体験から、そして私たち親から学んでくれるものと思います。

このように家庭教育は、それぞれのご家庭ごとに様々なシーンで、子どもに対して行っていくもので、正解はありません。価値観や倫理観、文化や伝統、そして基本的な生活習慣を次世代に繋いでいく大切な大切な教育なのです。

家庭教育支援協会は、家庭教育を通じて、次世代を担う子ども達の成長の手助けができるよう、会員の皆さま方と力を合わせて社会貢献すべく、今後さらに活動の場を広げてまいります。子育て経験や勉強・研究を通じて得た知識や知恵を、セミナーや講演会、コラムの発信などの形で、少しでも多くの方にお届けしていきたいと考えます。今年度上半期には、静岡支部に続き東京支部が開設され、ますます活躍の場が広がりました。会員の皆様が協会の活動に、より参加しやすくなります様、これからも努力していく所存です。今後共、ご支援ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度に行われた活動についてご報告申し上げます。

平成24年度 家庭教育支援協会 上半期活動報告

自 平成24年4月1日
至 平成24年9月30日

年月	日	事業内容	場所
2012 4		総会	八洲学園大学
	21	研修会 テーマ「子どもが挫折する過剰対応」 講師 教育評論家 川越 淑江 氏	八洲学園大学
	24	講師派遣事業 一般社団法人全国育児介護福祉協議会からの依頼 講師 和倉理事長派遣 テーマ「高い目 低い手」	一般社団法人 全国育児介護福祉協議会
6	30	家庭教育に関する調査・研究 「親の学び・親育ち支援ネットワーク」 平林理事・城条理事参加	PHP 研究所 東京本部
7	23	論文発表会テーマ 「放課後の子ども支援活動の実態と展望」 発表者 中島佳世 氏	八洲学園大学
8	18	家庭教育に関する調査・研究 日本家庭教育学会第27回大会 口頭発表 平林直人 「親子の愛情と家族集団経営～親の暴走と子供の絶望～」 同上 口頭発表 中島佳世 「家庭の食卓から日本を変える提言 ～子どもが主体的にかかわる新しい食卓をめざして～」	貞静学園短期大学
9	30	研修会 テーマ「子供の成長と親の自立」 講師 八洲学園大学教授 中田 雅敏 氏	みなとみらい21 地区 クィーンズタワーA KU ポートスクエア

★別途、定例理事会、並びに 各委員会会議が、随時行われました。

平成24年度 家庭教育支援協会静岡支部 上半期活動報告

自 平成24年4月1日
至 平成24年9月30日

年月	日	事業内容	場所	参加人数
5	26	静岡支部 第1回 家庭教育講座 「子供の心に栄養を～子守唄の偉大な力～」 高木桂蔵氏 日本子守唄協会理事 静岡県立大学名誉教授	静岡市 南部生涯学習センター	会員 5名 一般 10名
7	1	静岡支部 第2回 家庭教育講座 「親子で楽しむ梅雨～お部屋で簡単エクササイズ～」 羽柴多賀子氏 (社)日本スポーツ&ダンス連盟代表理事	静岡市 南部生涯学習センター	会員 5名 一般 12組
9	8	静岡支部 第3回 家庭教育講座 「生きる力を育てよう 父親の役割・母親の役割」 平林直人理事	静岡市 南部生涯学習センター	会員 3名 一般7名

活動報告 ～一般社団法人 全国育児介護福祉協議会 講演会～ 4月24日

和倉 慶子

家庭教育支援協会 理事長・日本家庭教育学会常任理事



全国育児介護福祉協議会様より、家庭教育支援協会へ講演の依頼を頂き、4月24日に開かれました全国育児介護福祉協議会において、お話しをさせて頂きましたので、ご報告いたします。

講演のテーマは「高い目 低い手」です。家庭教育は“父親”の高い目で導き、“母親”の低い手で支える、この両面が大切です。近年、家庭をめぐる環境や状況が大きな変化を見せています。家庭教育で守らなければならない大切なことについて、皆様と一緒にワークをしながらお話しをさせて頂きました。

まず、人の第一印象は何で決まるのか、人に好印象を与えるポイントは何か、を「メラビアン」の法則（アルバート・メラビアン：アメリカ心理学者が1971年発表）をご紹介しながら、お伝えしました。

次に、コミュニケーション能力を発揮するために、聴き上手になる方法をお伝えしました。聴く姿勢・表情・視線などに注目し、うなずき・あいづち・繰り返すなどを使いながら、実践を楽しみました。

そして「ジョハリの窓」（1955年アメリカの心理学者ジョセフ・ルフトとハリー・イングラムが考案し、二人の名を取ったコミュニケーション分析法）を使って、自分を知るための実践をグループで行いました。

また、私が師事している川越淑江先生の素晴らしい子育ての理論について、『よりよい親子関係を築くために』を抜粋して読み、22か国語に翻訳され、世界中で大きな共感を呼び、ミリオンセラーとなったドロシー・ロー・ノルトの『子どもが育つ魔法の言葉』（石井千春訳）の詩を朗読しました。

最後に老子の教えを「聞いたことは、忘れる。見たことは、覚える。やったことは、わかる。」を数字にしたアメリカの研究についてお話させて頂きました。

- ①聞いたことは、10%程度記憶に残る。
- ②見たことは、15%程度記憶に残る。
- ③聞いて見たことは、20%程度記憶に残る。
- ④話し合ったことは、40%程度記憶に残る。
- ⑤経験したことは、80%程度記憶に残る。
- ⑥人に教えたことは、90%程度記憶に残る。というものです。

家庭では、親が話をするだけでは、子どもの学びは少なく、子どもと話し合い、子どもに沢山の体験をさせることが学びに繋がるということです。さらには親が良い見本を示すことで子どもはそれを真似て覚え、それを人に教えることで自己を確立し、自己肯定のできる子どもに育っていくのです。子どもにとって親が全ての先生です。“父親”の高い目で導き、“母親”の低い手で支えることを皆さんで確認しました。

活動報告 ～親の学び・親育ち支援ネットワークに参加して～ 6月30日

平林 直人

家庭教育支援協会理事・日本家庭教育学会常任理事



去る6月30日、PHP 研究所の呼びかけで全国の子育てネットワークが開催されました。家庭教育支援協会からは城条洋子理事と平林直人が参加しましたので、その報告をいたします。

ネットワークは親学推進協会と縁が深い PHP 研究所の教育研修部長大江弘様によって22団体に呼びかけがあり、14団体が参加しました。

- 一般社団法人親学推進協会
- NPO 法人親学会
- 家庭教育支援協会
- 株式会社グループダイナミクス研究所
- NPO 法人心の育てインターネット関西
- NPO 法人子ども家庭サポートセンターちば
- NPO 法人コミュニテ・カウンセリング・センター
- 財団法人スコール家庭教育振興協会

- 東京家庭教育研究所
- 日本家庭教育学会
- NPO Mother's Net

- NPO 法人 Triple P Japan
- NPO 法人ホームスタートジャパン
- 社団法人倫理法人会

オブザーバーとしてNPO TOSSが参加しました。また、文科省より男女共同参画室学習課家庭教育支援室から室長以下4名の方が参加しました。まずは、自己紹介を行い各団体の活動状況の報告がありました。今回参加した団体はいずれもアクティブな活動をしていて、代表者のあいさつからその意気込みが感じられるようでした。

参加団体は大きく3つに分けられ、日本の学術的な団体と海外からノウハウを持ち込んで実践している団体、子育て経験をもとに実践活動をしている団体でした。特に海外からノウハウを持ち込んでいる団体については理論と実践が結びつき、どのように指導をすればいいのかという点がはっきりしています。家庭教育支援協会の目指すところはここであると思われました。

また、団体の活動においては少人数のグループによる実習的な活動が多く、受講生にはこのスタイルのほうが受け入れられていると感じました。家庭教育支援協会においても講演活動だけではなく、サークルやサロン、教室などの形で実技を交えた訓練を目指すべきであると感じました。

11月3日に第2回のネットワーク会議がありますが、ぜひご参加ください。他団体の活動は大変参考になります。私たちも他から学び、より良い家庭教育の普及に努めたいと思います。

活動報告

～日本家庭教育学会第27回大会を終えて～

8月18日

中嶋佳世

家庭教育アドバイザー

去る8月18日(土)、貞静学園短期大学で行われました「日本家庭教育学会」第27回大会において家庭教育支援協会の一員として研究論文を発表する機会を頂きました。テーマは「現代家庭の食環境と子どもの心の育ちの関係について」です。

戦後、近代化した日本人の食環境が「家庭」に与えた影響を、2006年にNHK放送文化研究所が実施した「食生活に関する意識調査」より考察。家庭の食卓が、父親を中心に団欒する「家族的」な営みから、個人の生活パターンや興味が優先された「個人的」な営みに変化し、それにより「食」を介した家族の繋がりが薄れ、家庭の食卓で「食事」を通して家族が「今」を分かち合い、心を癒す機会も減少している事が分かりました。そこには、家庭の食が概ね女性に委ねられている事も原因の一つという事実があります。その点に注目し、共働き家庭の増加、核家族化が止まぬ現代の日本社会において、再び「食」を核にした「家族の絆」を取り戻し、家族団欒の食卓の中で子ども達に「困難を生き抜く力」と「責任感」を育み、「自立した」青年へと成長させる為にはどうしたらよいかと考え、「子どもが主体的に関わる新しい食卓」を提案いたしました。



具体的には「幼児期から子どもにお米を研がせる」「料理の基本を10歳までに教え、親子が協力して食事の支度が出来るようにする」「食事は家族の分も考え自分で取り分ける」の3つです。要は、子ども達ももっと家庭の食卓に興味を持ち、積極的に関わることで家族が揃って食事をする機会が増え、「食」を通して、親が子を助け、子が親を助ける「共助」の中から、家族が互いに助け合って生きていく大切さや互いへの思いやりが子ども達の心に育つと考えたのでした。

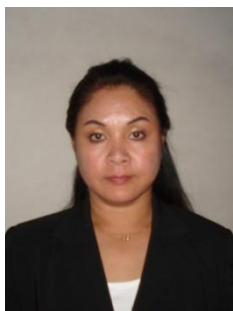
発表は多くの課題を残して終わりましたが、ご参加頂いた方々からは様々なご意見やご感想を頂き、大変有難く、大きな収穫となりました。とりわけ、年長者の方々からは「母親の愛情ある手料理が子どもの心を育てる」「かつてのような大家族が一同に会する食卓が子どもの心を育てる」等のご意見を頂き、「家庭の食事は愛情と人との関わりを頂くこと」という基本原理は揺るがないことを確信いたしました。その上で、時代と共に変わってゆく家族の形態や子育ての環境を十分に鑑み、常に「生きた家庭教育」を考えてゆかなければならないとも思いました。

今回は既存のデータや文献からの考察に留まりましたが、今後は自らの足でデータを集め、「子どもが主体的に関わる食卓と子どもの心の成長」について更に研究を続けていきたいと思っております。

今後の活動予定

家庭教育支援協会公開講座

2012年10～12月



■講師／木村孝子

シリーズテーマ 『思春期のドロップアウト』

1956年東京生まれ。東京女子体育大学を卒業後、高校教師、フィットネススタジオ経営、専門学校講師等を経て、2010年に家庭教育師・家庭教育アドバイザー資格を取得。現在、中高年の健康体操指導を行うとともに、自らの経験を基に、思春期の子どもと親の関係について研究を行っている。

○土曜日 10/6(土) 10/13(土) 10/20(土) 13:00～14:30

○受講費 1,000円/回

○開講人数 5人～

	日程	時間	内容
1	10/6 (土)	13:00 ↓ 14:30	タイトル【不登校とひきこもりの関係】 データによると現在、不登校児童・生徒は1クラスに1人の割合でいることとなります。推定70万人とされる「ひきこもり」の平均年齢は26.6歳で、その8割強が中学生から成人までの間に始まっています。不登校になった子どもがひきこもりになっていくのはなぜなのか、についてお話しします。
2	10/13 (土)	13:00 ↓ 14:30	タイトル【親が変わる】 不登校は恥ずかしいこと、いけない事、そんな思いに親は苦しみます。不登校になった子どもは親のそんな思いを感じてさらに傷つきます。不登校になった子どもに対して親はどのように対応すべきなのか、経験から学んだことも含めてお伝えします。
3	10/20 (土)	13:00 ↓ 14:30	タイトル【育て直しについて】 子どもの問題行動は親への『育て直しの要求』といわれます。これまでの子育ての何がいけなかったのか、気づきのヒントをお伝えします。



■講師／和田みゆき

シリーズテーマ『合格を勝ち取るママになる為の家庭で行う受験サポート講座』

私立女子中から短期大学までを同校で過ごし、OLを経て、コンピュータ支援業にて独立。妊娠を機に幼児教育・家庭教育に傾倒し、出産後はママ業の傍ら、八洲学園大学に入学し家庭教育を学ぶ。卒業後は日本家庭教育学会認定の家庭教育アドバイザー資格を基に「我が子の能力を、最大限に効率良く引き出し伸ばす開発型の子育て法」を指導している。

家庭教育サロン『家庭倶楽部』主宰。 <http://ameblo.jp/miyuki-lifestyle/>

○10/25(木) 11/24(土) 10:40～12:10

○受講費 3,000円/回

	日程	時間	内容
1	10/25 (木)	10:40 ↓ 12:10	タイトル【模試の成績に敏感になっていく子どもの心のケア】 模試の結果に次第に不安になる子どもの心のケアの方法と、子どもが心を折らずに、集中力を保ったまま前向きに受験に臨むコツについて、児童心理学やパフォーマンス心理学、アドラー心理学、大脳生理学の面からお話しします。
2	11/24 (土)	10:40 ↓ 12:10	タイトル【子どもがやる気と夢を抱くようになる親の対応】 受験日が残り100日となったのに、子どもの成績が伸びない。やれば結果を出せるのになかなかやる気にならない我が子にイライラが募る親御さん向けの子どものやる気を引き出し夢を抱かせる親の対応学ぶ講座です。



■講師／松本美佳

シリーズテーマ『自然療法で考えるホームケア＆子育て』

ナチュラルセラピースクール Ms touch & 自然療法治療室 松本鍼灸継接骨院

○11/7(水) 11/14(水) 11/21(水) 11/28(水) 10:30~12:00
12/5(水) 10:00~12:00

○受講費 2,000 円/1~4 回 3000 円/5 回目のみ

○開講人数 5人~

	日程	時間	内容
1	11/7 (水)	10:30 ↓ 12:00	タイトル【自然療法とホームケアを見直そう】 自然療法は、自然素材を使うだけのケアではありません。 自然療法観を見直すことで、ホームケアの大切さやホームケアをする上での基礎的な考えを身につけ、日々の生活に取り入れてみましょう。 ハーブティーの利用法をご紹介します。
2	11/14 (水)	10:30 ↓ 12:00	タイトル【植物から学ぶケア】 植物にまつわる不思議なエピソードをお伝えしながら、植物から学ぶさまざまな知恵を見直し、生活に取り入れてみましょう。 さまざまな植物療法をご紹介します。
3	11/21 (水)	10:30 ↓ 12:00	タイトル【ふれあい上手は心を育てる】 タッチケアやベビーマッサージなどが話題を呼んでいます。しかし、手技や順番どおりにこなすことに気を取られてしまう方も多いようです。大切なのは心に触れることです。 良い触れ方とは、身体的な刺激だけではなく、心や意識そしてコミュニケーションにも良い影響を及ぼします。セラピストという立場で、またさまざまなふれあいのエピソードを交えながら、ふれあいの大切さをお伝えします。触れ方のコツもご紹介します。
4	11/28 (水)	10:30 ↓ 12:00	タイトル【五感で育む家庭教育と心】 視覚を過度に使う生活が増えました。そのため他の感覚を上手に使うことができなくなっています。五感を上手に使うことで、日常の生活や子育てにも良い変化が出てきます。五感を意識した生活の有効性やそれがどのように子育てや家庭教育に影響していくのかをお伝えします。五感と心の関係についても考えてみたいと思います。
5	12/5 (水)	10:00 ↓ 12:00 (120分)	タイトル【JAA チャイルドケア基礎講座ダイジェスト版】 日本アロマコーディネーター協会(JAA)で開講されている「チャイルドケアホームワーク講座(通信)」のスクーリング(基礎)のダイジェスト版になります。すでに「JAA チャイルドケア」を受講されている方のための内容ですが、本講座にご興味のある方のために一般受講できるものになっています。この講座を受講された「JAA チャイルドケア」受講生は、スクーリングの基礎講座参加と見なされます。 「JAA チャイルドケアホームワーク講座」とは、アロマセラピーやハーブ療法、タッチケア、東洋医学など自然療法の考え方を取り入れ、子育てや生活に活かすことを提案した講座で、育児と育母を提案する内容になっています。 2000年より開講し、すでに16000人以上の方が受講しています。 日本アロマコーディネーター協会 チャイルドケアホームワーク講座 http://www.childcare-jp.com/

今後の活動予定 静岡支部

★連絡先静岡支部 adviseryuki@yahoo.co.jp

①家庭教育講座「笑顔が未来を創る」

ふた月に一度開催し、参加される皆さまと共に子供たちの健やかな育ちを支援していく術を学びます。

2013年1月予定「ドラムで自分の心を奏でよう！」～自分を開放～ 講師:鈴木知子

2013年3月予定「お母さんが笑顔になるために」～声掛けのコツをゲットしよう～ 講師:八木由紀

詳細は、静岡支部へお問い合わせください。

②『「おいしい・楽しい・学べる」秋はあざれあメッセ 2012』に出店

来る平成24年10月27日(土)には、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」において開催される、静岡県主催のイベントに出店します。

家庭教育支援協会では、中ホールを使用し、「ドラムサークル」を主宰する鈴木知子さんと今井まゆみさんをファシリテーターに迎えて幼児から大人までを対象に、一人一つずつドラムを持って

リズムを刻み、コミュニケーションを図ろうというイベントを計画しています。

他にも、親子での小物作りやママのための癒しマッサージなど、

およそ100の企業及び団体が企画・出店します。

ぜひ足を運んでいただき、秋の一日を食に遊びに学びにと満喫して

みませんか？



東京支部発足のおしらせ

★連絡先:松本美佳 chamomile-m@nifty.com

このたび、二川早苗、松本美佳、木村孝子の3名の理事が発起人となり、東京支部を発足いたしましたことをご知らせいたします。

協会設立から2年半、横浜を本拠地に活動してまいりましたが、静岡支部の活躍に勇気づけられ、ようやく東京支部として活動を開始することになりました。8月15日の時点で東京支部に入会を希望された方は、発起人3名を加えて9名となりました。具体的な活動などについては未定ではありますが、支部活動として会員の参加意識を尊重し、各々の要望を取り入れながらゆっくりと進めていく予定です。



発足会・第1回会員交流会を9月26日(水)に開催し、会員同士の顔合わせと意見交換、また、今後の活動への要望・提案などを取りまとめ、活動の第一歩を踏み出します。

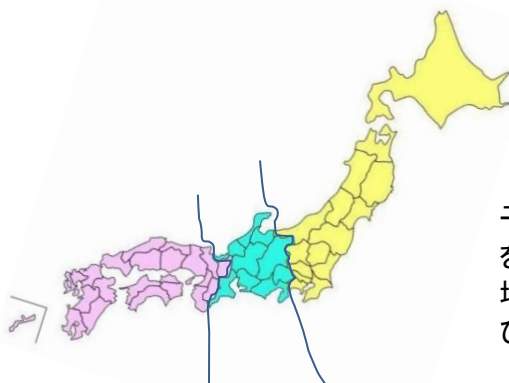
東京支部に限らず、支部への入会は、会員の希望により自由に選択できますので、思案中の方はお気軽にお問い合わせいただければと、発起人一同、心よりお待ちしております。

★家庭教育支援協会に所属して下さっている皆さま方の地域をお知らせします。

■ 神奈川以東地区・・・47名

■ 中部地区・・・8名

■ 滋賀以西地区・・・3名



皆様がお住まいの地域にも、家庭教育支援協会のお仲間がいらっしゃるかもしれません。

一人では勇気がなくても、仲間がいれば、はじめの一步を踏み出し、スキルアップできるチャンスがあります。また、地域との絆を深め、あらゆる世代の方々と交流することで社会に貢献していくこともできます。

子育てスキルをお持ちの方も、そうでない方も、是非、支援協会を活用して、イベントへの参加、情報共有などをしながら仲間を増やし、自分を磨き、自立した子供を育てる、という素晴らしい学びをご一緒しませんか？

自己紹介

前回より、家庭教育支援協会に所属する会員の皆さまを、毎号2名ニュースレターでご紹介しています。家庭教育への思い、活動の様子、今後の抱負など、それぞれ思い思いに語っていただきます！



家庭教育支援協会 会員 北島眞由美

日本の家庭は戦後大きく変化し、戦後世代は子育て知識や技術が得られないまま親となり、その状態がすでに三世代にわたっています。そのため家庭の教育力が弱くなったといわれています。

一方、多様化した社会環境や知識基盤社会の到来で、常に新しい情報や知識、技術を得ることが家庭生活においても重要となってきました。またグローバルな視点での判断に迫られることも多くなっています。したがって各々の家庭がこの時代を生き抜き、また子どもの「生きる力」を育むためには、今後家庭の役割はますます重要となります。

しかし社会環境は先行き不透明で、いまやダブルインカムが結婚の条件ともなっており、家庭にかけられる時間は減る一方です。このジレンマを解決するには、専門的な知識を持って共に歩んでくれる援助者など、周囲の環境資源が不可欠であると考えています。

私自身は子育てが終わり次世代の援助をする年代となりました。そこで、家庭教育を専門的に学び、今春社会教育主事と家庭教育アドバイザーの資格を取得しました。現在はさらに子どもの発達や認知の過程についてのヒントを得たいと心理学を学んでおり、来春から家庭教育支援協会の活動を手がかりに支援活動を始めたいと思っています。



家庭教育支援協会 会員 村岡みどり

皆様 こんにちは 神奈川県藤沢市在住の村岡と申します。

現在 三人の子供も成人し、独身で青春を謳歌している娘や、家庭を築いて親子四人で生活している息子など、兄弟でもそれぞれの人生を過ごしております。

子ども達が高校、大学進学を控えた多感な時期に、私も母として思い悩むことがあり、子育ての専門的な考え方を学ぶ為に2004年に八洲学園大学(家庭教育課程)に入学し、

2010年に家庭教育アドバイザーと社会教育主事と家庭教育師の資格を取得しました。

ある程度年齢が過ぎてからの、しかも家事と仕事を抱えながら勉強でしたので、大変でした。

しかし、夫や子ども達の協力もあり、卒業論文までたどり着き、無事卒業することができました。

そして、この大学における授業で、世界中の八洲学園大学の人達との出会いがありました。ネットを通じて、海外で生活している日本人の頑張っている姿を感じ、物事を広く見ることが出来るようになりました。

そして、これから始まる第二の人生の大きな力になりました。

教育とは、永遠の課題です。現在、少しでも若い母親達の助けになればと藤沢市ファミリーサポートセンターのおまかせ会員で活動しております。

～編集後記～

家庭教育支援協会 理事 二川早苗

各地で観測史上初の記録的な暑さとなった今年の夏でしたが、みなさまは、お住まいの地域で、どのような夏を過ごされましたか。八洲学園大学の家庭教育の灯を絶やさぬよう話し合われた末に生まれた家庭教育支援協会ですが、間もなく二年半が過ぎようとしています。全国に散らばった卒業生に加え、家庭教育の重要性に共感して活動を共にして下さる方も増え、本協会も新たな活動の時期に入って参りました。足元の家庭の幸せと、それぞれの家庭の幸せのために、みなさまと一緒に考え、行動し、活動を続けて参りたいと思います。ご意見、ご感想等ありましたら、編集部までお寄せください。

★編集部(コラム・会報委員会) adviseryuki@yahoo.co.jp